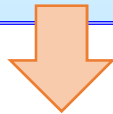


# 美浜発電所 3号機事故 風化防止への取組み状況について

平成26年11月17日  
関西電力株式会社

- ・当社は、平成16年8月の美浜発電所3号機事故の反省を踏まえ、**社長の宣言**「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」（平成17年3月）のもと、**安全は全ての事業活動の根幹**であるとともに、社会から**信頼を賜る源**であると考え、**「安全最優先」の事業活動を経営の最優先課題として展開**しています。
- ・**今年の8月で事故から10年**を迎え、原子力部門では**事故後に入社した社員が3割を超えている**ことも踏まえ、美浜発電所3号機事故の**反省と教訓を深く心にとどめ**、安全最優先を実践できるよう、**風化防止の取組みも継続して実施**しています。



## 【風化防止の取組み】

1. **日常業務における取組み**  
**再発防止対策を確実に実施**するとともに、**社内研修等**を通じて、事故の反省や教訓を風化させないように努めています。



2. **「安全の誓い」の日の取組み**  
**毎年8月9日**を「**安全の誓い**」の日と定め、様々な風化防止の取組みを行いながら、社員一人ひとりが「**二度と同じような事故を起こさない**」との誓いを新たにしています。



・再発防止対策を確実に実施するとともに、社内研修等を通じて事故の反省や教訓を風化させないように努めています。

【主な取組み】

継続：今年度も継続実施している取組み

◆再発防止対策の確実な実施 **継続**

- ・各再発防止対策については、**責任箇所が品質目標の活動計画を定め、確実に実施**
- ・その結果を社長に報告した上で、次年度の活動を展開
- ・事故の反省や教訓を風化させないよう、**継続的に実施**している取組み事例は以下のとおり

○経営層と現場第一線職場との対話を実施

- ・社長を含む経営層が現場第一線で社員と直接対話を実施し、経営層が、**安全最優先について自らの言葉で伝える**とともに、現場第一線の声から、**経営層が現場の実態を把握して発電所運営に反映**



【社長対話】



【膝詰め対話】

平成17～25年度実績:354回  
(うち原子力発電所:33回)

平成17～25年度実績:263回

○全社一体となった原子力支援

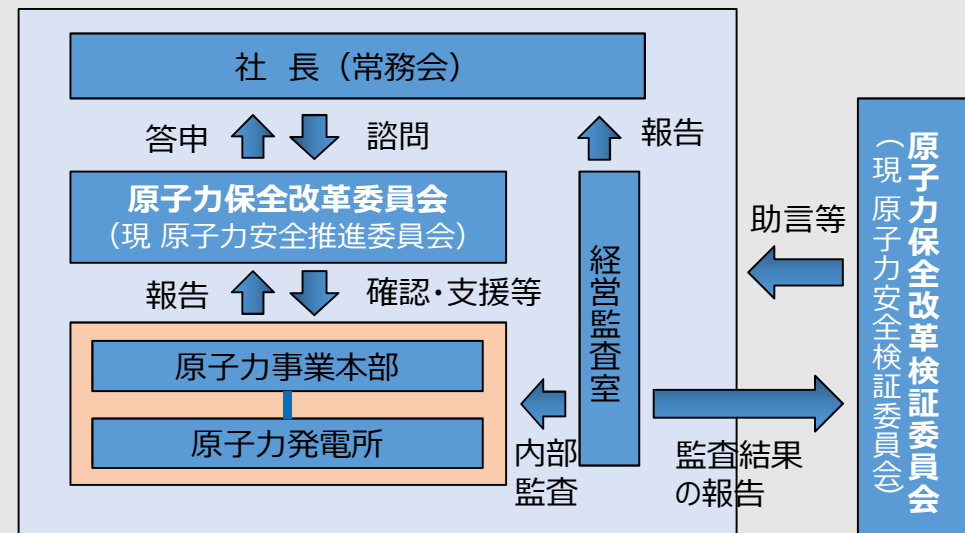
- ・社内の広範な部門で構成する「原子力保全改革委員会※1」で再発防止対策や安全文化醸成活動の実施状況を確認しながら、全社を挙げて原子力安全を推進・支援

※1：平成24年6月に「原子力安全推進委員会」へ名称変更  
(平成17～25年度実績：173回)

○独立した組織による監査・検証

- ・原子力部門から独立した監査部門による原子力監査の充実(原子力監査スタッフが若狭地域に駐在等)
- ・監査結果を**社外有識者が主体**となる「原子力保全改革検証委員会※2」に報告。同委員会が、再発防止対策の実施状況の検証、安全文化醸成活動に対する助言を実施。

※2：平成24年6月に「原子力安全検証委員会」へ名称変更(平成17～25年度実績：23回)



継続：今年度も継続実施している取組み  
充実：今年度内容を充実させた取組み  
新規：今年度新規で実施した取組み

## 【主な取組み】

◆安全文化醸成活動の推進 **継続**

- ・原子力部門の**安全文化の状況**を「トップのコミットメント」、「コミュニケーション」、「学習する組織」の3つの切り口で**毎年評価**し、継続的な改善を図りながら、安全文化醸成活動を展開

(評価の切り口と具体的な取組み事例)

「トップのコミットメント」：役員による発電所キャラバン活動を行い経営方針を浸透等

「コミュニケーション」：協力会社からの要望の迅速な対応、協力会社の現場監督者との対話活動、社員のマナー向上等を推進し、協力会社との一体感を醸成等

「学習する組織」：他部門や他産業のベンチマーキング活動等

◆社内研修の実施 **充実**

- ・新入社員や新任役職者など、各階層別の教育の中で、事故の概要や反省、教訓等を教育



【新入社員研修】

今年度充実させた取組み → 4

◆ライブラリと証言録の作成 **新規**

- ・今年の8月で事故から10年を迎えたことも踏まえ、事故に関係する資料等を幅広く収集し、一元的に保管するため、社内のイントラネット上にライブラリを新たに作成
- ・今後、退職等により、事故当時に直接対応にあたった社員が減少していく中、再発防止対策に込められた思い等を確実に受け継いでいくため、社内のイントラネット上に証言録を新たに作成

→ 5

・今年度の8月で事故から10年を迎えたことを踏まえ、事故を契機に進めてきた「安全最優先」の取組みに関する思い等を伝えていくため、今年度、以下のような取組みを実施しました。

## ◆階層別研修の充実 **充実**

・事故の概要や、反省・教訓等を学ぶ既存のカリキュラムに加えて、講師の体験談等を交えながら、「事故は決して過去のものではないこと」や「事故を契機に全社で安全を推進してきたこと」等を訴求した研修を実施



- ・4月 **全新入社員**（約390名）を対象に研修を実施
- ・7～8月 **若手社員**（約550名）を対象に研修を実施
- ・8～9月 **新任役職者**（約220名）を対象に研修を実施



### 【受講者（新入社員）の声】

- ・安全を疎かにしたことで、命を奪われた人がいたことを常に忘れず、安全のためにできることがあれば直ぐに行動したい
- ・自分がいかに社会的影響力のある会社にいるのか、そして自分の安全に対する綻びが少しでもあれば、多くのお客さま、社会に迷惑をかけるのか、ひしひしと感じられた
- ・当社社員になった以上、事故は自分にも深く関係するものであると感じた。作業現場勤務でなくても、自分の持っている安全意識が会社全体の空気の一部であるということを忘れず、真摯さを持って、業務に取り組もうと思う
- ・「事故当時は社員でなかったから関係ない」ではなく、事故のこを受け止め、事故から学んだ教訓は、しっかりと受け継いでいきたいと感じた。安全に対する思いを強く持ち、「災害はゼロにできる」を実践していきたい
- ・書類の不備1枚が、事故に繋がるという気持ちでやっていきたい



研修結果は、役員層も含め社内で共有し、今後の研修内容の検討等に活用する予定

## ◆ライブラリの作成 新規

- ・事故に関する資料等を幅広く収集・保管し、事故の反省と教訓を確実に継承していくため、社内のイントラネット上にライブラリを作成し、8月から運用を開始



### 【ライブラリの概要】

- ・事故の報告書や事故の概要をまとめた社内研修資料、事故関係者による講演会の映像等を保管
- ・今後も、事故に関するコンテンツを一元的に活用できるよう、収集・保管

## ◆証言録の作成 新規

- ・事故に直接関係した社員が今後も退職していく中、関係者の証言等を整理し、再発防止対策に込められた思い等を確実に受け継いでいくため、上記ライブラリの中に証言録を作成し、8月から運用を開始



### 【証言録の概要】

- ・再発防止対策の策定に関係した社員にインタビューを実施し、当時の状況や対策に込められた思い等を整理
- ・「安全の誓い」の日の職場ディスカッションにおける1つのツールとして、活用を奨励
- ・各種研修の中での活用方法や証言内容の充実について、引き続き検討

・二度と同じような事故を起こさないとの誓いを新たにするため、美浜発電所構内に石碑を建立し、毎年8月9日を「安全の誓い」の日としました。

・毎年、「安全の誓い」の日には、**全社員が黙祷**を行い、被災された方に対する哀悼の意を表すとともに、以下のような取組みを通じて、**社員一人ひとりが「安全最優先」の思いを新たに**しています。



【主な取組み】

◆黙祷・献花 **継続**

- ・事故の発生時刻に全社員が黙祷
- ・役員が献花



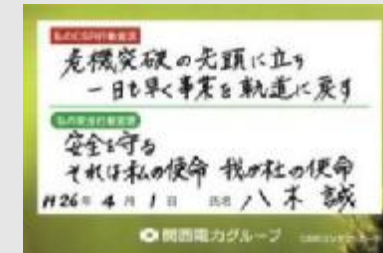
◆社長メッセージ **継続**

- ・社内テレビやメール等を通じて社長メッセージを発信



◆安全行動宣言の再確認 **継続**

- ・各自がCSRコンタクトカードに記入した安全行動宣言を再確認



◆社内教育資料の活用の懇話 **継続**

- ・事故の概要等をまとめたビデオや冊子の活用を懇話



◆職場ディスカッションの実施 **継続**

- ・原子力部門の各職場において、安全最優先に関するディスカッションを実施

◆アンケートの実施 **継続**

- ・社員と協力会社を対象に安全に関するアンケートを実施

今年度充実させた取組み



## ◆事故関係者による講演会の実施 **充実**

- ・美浜発電所において、当社社員と協力会社社員を対象に、当時、事故を経験した社員による講演会を実施（7月下旬）



【社員への講演会】（54名が参加）  
（参加者の声）

- ・講師が実際に体験した話を聞いて「このような事故を二度と起こさない」との意識が高まった
- ・事故を直接知らない若手社員にとって、大変な事故ということを改めて認識した



【協力会社への講演会】（62名が参加）  
（参加者の声）

- ・事故を直接知らない割合が増えている中、事故の反省、教訓を伝承することは非常に大切

## ◆各部門の役員の安全行動宣言と、込めた思いを発信 **充実**

- ・原子力以外の部門も、事故の反省と教訓を風化させず、安全に関する活動を活性化するため、各部門の役員の安全行動宣言と、そこに込めた思いを社内報で発信



【各部門の役員の安全行動宣言】  
（例）

- ・迷った時の原点 安全最優先
- ・安全に関しては、思い立ったらすぐ行動！

## ◆安全に対する思いを動画で配信 **新規**

- ・原子力以外の部門も含め、現場第一線社員の安全に対する思いを社内ポータルサイトの動画で配信



【原子力部門】



【配電部門】



【送電部門】



引き続き、「日常業務における取組み」と「『安全の誓い』の日の取組み」の各取組みについて、**PDCAを確実に回しながら**、事故の反省と教訓の風化防止に努めてまいります。

